第２学年国語科学習指導案

＜ 提 案 ＞

１　古典作品に対する興味・関心を高めるための手だて

①　生徒の発達段階や興味関心と、教科書教材と構成や内容が類似した作品を複数紹介し，それらを音読したり現代語訳を対応させたりしてできるだけ多くの作品を読ませることで、古文特有のリズムを体感させたり，古典作品に慣れ親しませたりする。

②　作品の背景や状況を分かりやすく解説している現代語訳（意訳や漫画も含める）や視聴覚教材を効果的に活用する。

２　古典学習における基礎的・基本的事項の定着を確実に図るための手だて

（Ａ問題対応）

①　重要古語を段階的に習得できるように工夫したワークシートを活用する。

②　授業の中に音読を位置付ける。

③　現代語訳と古文との対応のさせ方を工夫した学習活動を効果的に取り入れる。

３　古典学習において，思考力・判断力・表現力の育成を図るための手だて

（Ｂ問題対応）

①　作品の主題（本単元は人生訓）を，現代語訳と古文を対応させながら，とらえさせるための課題を工夫する。

②　「読むこと」と「書くこと」との関連を図り、読み取ったことや、読み取ったことを基にした自分の考えを、設定した条件に応じて書かせる学習を設定する。

③　生徒に学習材を選択させ，共通教材での学習と同じ方法で読み取る学習を活用する場として設定する。

１　新潟市の生徒の実態

新潟市「全国学力・学習状況調査」の結果分析参照。

２　単元名

随筆を読もう～「徒然草」「枕草子」～

教材「枕草子・徒然草」（三省堂「現代の国語２」平成 21 年度版）

「大型版　やさしい古典　これなら読める　徒然草」

（長尾　剛・文　汐文社　2006 年 11 月初版）

「すらすら読める　徒然草」（中野孝次・著　講談社　2004 年４月）

「新潮日本古典集成　徒然草」（新潮社　平成５年第１４刷）

「ＮＨＫ 10min.日本の古典　徒然草」

３　単元のねらい

○　いろいろな随筆を読んで、文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くしようとしている。（関心・意欲・態度）

◎　「徒然草」の章段に表れている兼好法師が取り上げたエピソードや事象を読み取り、そこから　著者　兼好法師がどのようなことを考えたかをとらえることができる。　（読むこと）

◎　「徒然草」の段の事例や兼好法師の教えを読み取ったことを根拠として、段のタイトルを自分の言葉で「人生訓」としてまとめることができる。（読むこと）

○　各自が付けた「人生訓のタイトル」の妥当性をペアやグループで検討することができる。

○　歴史的仮名遣いや作品特有のリズムに気を付けて音読をしたり、現代語訳と古文を対応させたりすることができる。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

４　単元について

(1)　単元設定の意図

「随筆を読もう～徒然草・枕草子」とし、古典の日本三大随筆と言われる随筆のうち、主に「徒然草」を取り上げて単元を構成する。初めに、視聴覚教材等も用いながら、時代背景に作品や作者というバックグラウンドナリッジ（読み手が読む前にもっている知識）を理解させるとともに、作品や作者に親しみや興味をもたせてから、内容に入っていくように構成した。

序段では、音読や暗唱をしながら、「随筆」というジャンルについての理解も図る。

単元では、教科書教材の 52 段「仁和寺の法師」の他に 54・92 段・109 段を取り扱うこととした。中学生という発達段階と、教科書の段と構成や内容が類似しているものを取り上げた。エピソードを読み取りながら、兼好法師が説いている「人生訓」「教え」を主体的につかませたいと考えている。また、それらの「人生訓」は、中学生が自分たちの生活にあてはめて指針とすることができるのではないかと考えている。

また、複数を取り上げる意図は、生徒の興味関心に触れるように選択の機会を設けることと、古典の力を付けるためには多くの作品を実際に読むことと、自力で概ね読めるという成就感をもたせる必要性があると考えたからである。もちろん、現代語訳等も合わせながら、生徒の抵抗感を和らげる工夫を取り入れる配慮もしていくこととした。

「枕草子」については、「徒然草」の学習後に、「他の随筆も読んでみよう」とし、書き手の思いや人柄によって様々な随筆があることに気付かせ随筆の世界へ誘いたいと考える。

(2)　学習材「徒然草」について

①　作者　吉田　兼好（兼好法師）について

本名は、卜部兼好（うらべかねよし）といい、弘安６年（1283 年）頃の出生、正平７年（1352 年）以降の死没と推定されている。享年 70 余歳である。生年は、鎌倉幕府の執権北条時宗が現群の襲来を退けた弘安の役（1282 年）から２年後である。没年は南北朝の和睦協定が破れて攻防が激化した時期である。鎌倉幕府から室町幕府に交替するまでの南北朝の動乱の時代に生きたといえる。

吉田兼好というのは、没後、江戸時代になって、彼が京都にある「吉田神社」という誇り高き代々神官を受け継ぐ家に生まれたことと、宮仕えを経て 30 歳前後で出家し法師になったことから付けられたものである。

② 「徒然草」について

成立については様々な諸説があるが、現在では、鎌倉時代後期元徳２年（西暦 1330 年）11 月以降、元弘元年（1331 年）９月までの１年足らずの間に書かれたのであろうと言われている。（出典「日本古典文学全集」小学館）

兼好法師が出家した後の 48、9 歳ころと言われている。歌人としても名を成していたが、もちまえの冷静で論理的な頭脳が散文を執筆されたのではないかと言われている。

「枕草子」「方丈記」と並んで日本の三大随筆と言われ、現在も「日本の論語」と言われ評価されている。

「徒然草」の中心思想は「無常観」であると言われているが、兼好法師は、人の命も人の世もはかないからこそ、一瞬一瞬を大切にして生きるべきだと説いている。無常を肯定し、そこから人生の価値をとらえ直している。暇で退屈な「つれづれ」もまた、人の世の真理を見つめる時間へと格上げされたとも言われている。

③ 取り上げる段にについて

ア　序段

序段を取り上げ、音読をしたり、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直したりしながら、学習の進め方を確認するとともに、「徒然草」という作品の特徴や「随筆」というジャンルの特徴、作者について学習の共通理解を図る。

イ　第 52 段

「ある仁和寺の法師」について書かれている三段のうちの一つで、教科書に掲載されている。この段は、兼好法師が見聞きしたある仁和寺の法師のエピソードと、そのエピソードについての兼好法師のコメント（人生訓や教訓に値するもの）がある段である。

ウ　第 54 段

選択する段の一つで、「ある仁和寺の法師」の段の一つ。稚児を楽しませようとした法師たちが、破子を庭に隠し探し出させて驚かせようとする話であるが、隠したところを見ていた者に盗まれ、その計画は失敗してしまうという件の段である。やはり、第 52 段同様、兼好法師が見聞きしたエピソードと最後にそれについての兼好法師のコメント「あまりに興あらんとする事は、必ずあいなきものなり。」とで構成されている。

エ　第 92 段

弓矢の名人の話である。若い者が弓を射るのに、二本の矢を持っているのを見た名人が、「弓矢を二本、持ってはいけない」と言い、「なぜか」と若い者が問い、それについて名人が答えたことについて、兼好法師がコメントを述べるという段である。

エ　第 109 段

選択する段の一つで、「木登り名人の話」である。これも兼好法師が見聞きした話である。木登り名人が、高い木に登っている人に気を付けるように声をかけるのだが、高いところで声をかけるのではなくで、低いところに下りてきてあと少しというところで声をかけたのを見て、「それはなぜか」と兼好法師が問うたことについての名人の答えに兼好法師が関心するという段である。

5　指導の構想

(1)　教科書教材だけでなく、それ以外にも複数の随筆を取り上げたり紹介したりすることで、古典作品に読み慣れさせ、抵抗感を減らしていく。

(2)　生徒が作品の状況を大まかにとらえたり、しっかりとその段を読みたいと思うように、現代語訳や視聴覚教材等を効果的に用いる等の工夫をし、単元や授業の導入を工夫する。

(3)　現代語訳と古文の対応のさせ方を工夫したり、目的に応じて用いる現代語訳を「意訳」や「直訳」と使い分け、大まかに内容や状況をとらえることができるようにさせる。（提案①）

(4)　「徒然草」では、兼好法師が見聞したエピソードとそれに基づいた「人生訓（教え）」が入っている段を取り上げ、叙述をもとに、兼好法師のメッセージをまとめさせたり、メッセージを贈る相手を考えさせ添え状を書かせたりさせる。（提案②③）

(5)　叙述を基に読み取ったことや、叙述を基にした自分の考えを、複数の条件を設定し、条件を踏まえて書く活動を位置付けることで、読むことと書くこととの関連を図る。（提案③）

６　指導計画（全６時間）

次(時)	学　習　活　動　◇主な発問等	・留意点◇学力向上対策＊教材
一 （１）	**○　随筆「徒然草」の背景、吉田兼好とはどういう人物かを、視聴覚教材及び現代版の「徒然草」からとらえる。** **○　序段を原文で音読する。** **○　随筆とは何かについてとらえる。**	◇まず、単元の導入で作品に対する興味関心をもたせたり、「徒然草」を読みたい、読んでみようという学習意欲を喚起する。 **・時代、作者像、**主人公の人柄や,「つれづれなるままに」という序段から「随筆」の特性をとらえさせる。 ＊ NHK10min.ﾎﾞｯｸｽ「徒然草」 「大型版やさしい古典　徒然草」 「徒然草」序段 ・「序段」を歴史的仮名遣いに気を付けて繰り返し音読させる。 ◇Ａ対策「歴史的仮名遣い」 「音読」 「重要古語」
二 （２）	◎　「徒然草」を読んで、兼好法師の考え方をとらえよう。【単元を貫く課題】 ○　第５２段「仁和寺の法師」を読んで、兼好法師が伝えたいことを読み取る。 ◇　「仁和寺の法師は、どんな失敗をしたのか。」 ・ 現代語訳で前半を読み、大まかに状況をとらえる。 ・原文の前半部分を音読する。 ・問いに答えながら、原文と現代語訳を対応させ、内容を理解する。 ・仁和寺の法師が参拝を終えて戻ってきてから仲間に話した会話文を読み、仁和寺の法師が、どんな失敗をしたのかを読み取り、条件に従って書く。	＊「大型判やさしい古典　徒然草」 （ 長尾　剛　文　汐文社 ） ＊地図（極楽寺・高良社・ 石清水八幡宮） ・現代語訳で「仁和寺の法師が、実にばかばかしい失敗をやった」という件まで読ませ、失敗の内容に興味をもたせる。 ・現代語訳と原文の音読や問いに答えることを通して、段の前半部分を正しく把握させる。 ・仁和寺の法師がどんな失敗をしたのかを､条件に基づいて書く。
	・前時の確認 ◇　「仁和寺の法師は、なぜ失敗をしたのか。」。」	・仁和寺の法師の失敗を、全体で確認する。 ・現代語訳（２種類）と原文を関連付けながら、失敗の原因を読

	○　仁和寺の法師は、なぜ失敗をしたのか。 ・たった独りで、行ったから。 ・皆が牛車で行ったり舟で行ったりするのに、初めて行ったのに歩いていったから。 ・石清水八幡宮は、有名な大神社で、摂社としての「高良神社」と神宮寺としての「極楽寺」も備えていたから、早合点して間違えた。 ・周りの人が皆、山の上の方にずらずらと歩いて登っていくのを変だなと思いつつも、目的を果たしたのだから山の上へなぞくべきでないと思い込み、周りの人に、山の上へ行く理由を聞かなかったから。 ○　どうすれば失敗を防げたかを考えながら、この段の「教え」を贈りたい相手を想定し、「贈り状」を書く。 ①誰に（どんな人に）、この段のエピソードを贈りたいか。 ②なぜその人に贈ろうと思ったか。 ③贈る言葉 ○　①②③を踏まえて、「贈り状」を書く。	み取らせる。特に、根拠として原文の古語をあげさせる。 ・どうやれば失敗を防げたかについて、自分の考えを書かせ、それをもとに段の「タイトル」を付けさせる。 ・付けたタイトルについて、叙述を上げながら付けたタイトル
三(2)	**○　現代文で提示した「徒然草」の他の段の中からを現代文で提示し、自分が読んでみたい段を選び、兼好法師の考えを読み解いていく。** ・歴史的仮名遣いに気を付けながら、音読する。 ・どういうエピソードか、（どんな人物が、どういう状況で、どんなことをしたか）を現代語訳を対応させながら読み取る。 ・最後の兼好法師の考えを現代語訳を手掛かりに読み取る。 ・兼好法師の教えを読み取り、段のタイトルを付ける。	・取り上げる段は、人生訓がつかめるもの、構成が「仁和寺の法師」とほぼ同じで事例（エピソード）があり、最後に兼好法師の考えが一言記されている段を選ぶ。 ＊第 92 段「ある人、弓を射ることを習ふに」 ＊第 109 段「高名の木登り」 ＊第 54 段「御室のちご」
	・同じ段を選んだ人と、付けたタイトルについて話し合う。 ○　学級全体で、自分が選んだ段以外の段について音読をしたり、付けたタイトルを確認し合ったりする。 ○　日本で初めて書かれた随筆「枕草子」の第１段を読んでみて、「徒然草」と比べて違いを交流し合う。	
四(1)	**○　「枕草子」第１段を読む。** ・第１段を音読して、平安朝の文体やリズムに親しむ。 ・「をかし」に着目しながら、清少納言が、何を見聞きしながらどんなことを感じたかを読み取る。 ○　現代の随筆や、「枕草子」「徒然草」の原本や、漫画、現代語で書かれた書籍を紹介する。	

7　本時の指導Ⅰ

(1) 本時のねらい（本時２／６　全６時間）

○　「徒然草」第 52 段を、歴史的仮名遣いや古文特有のリズムに注意して、正しく音読することができる。

○　古文と現代語訳を対応させながら読み、ある仁和寺の奉仕がどういう状況でどんな失敗をしたのかを読み取ることができる。

(2)　本時の構想

①　序段を受けて、数ある「徒然草」の段の中から兼好法師が見聞した話を基に、人生訓が書いてある段を取り上げることで、「兼好法師の教えをとらえよう」という課題を提示し、学習の方向性をもたせる。

②　生徒の興味を引き寄せながら第 52 段の状況や時代的背景を盛り込んだ「現代語訳」を紹し、「石清水八幡宮詣での意味」や「神社と仏閣の関係」を大まかにつかませたり、「仁和寺の法師の失敗とは何か」という課題意識をもたせたりする。

＜参考＞「大型版やさしい古典　これなら読める　徒然草」（長尾　剛・文　汐文社　2006 年 11 月初版）『知らないことは人に聞け』に含まれている情報

③　古文特有のリズムや歴史的仮名遣いを習得できるように音読の仕方を工夫したり、重要古語を色付けしたり、難易度別に並べたりしたワークシートを活用することで、基礎・基本となる歴史的仮名遣いや重要古語の習得を図る。

④　重要古語の意味の確認は「古文から現代語訳へ」という対応を、法師の失敗の読み取りが「現代語訳から古文へ」という対応を、それぞれさせることで、重要古語の習得や内容の的確な理解を図る。

(3)　本時の展開

時間	教師の働き掛け	○学習活動・予想される反応	・留意点◇評価
５分	課題提示 これから、４時間かけて兼好法師が書いた「徒然草」を読んでいきます。「徒然草」には、滑稽な話や、法師が見聞きしたり経験したりした話、自然や恋愛、友人について感じたことを綴った様々な段があります。 兼好法師が見聞きしたことに「教え（人生訓）」が書かれている段を取り上げていきます。	○様々なジャンルがあることを知る。	・「随筆」というジャンルの確認をしながら、様々なジャンルがあることを知らせる。
	「徒然草」の作者　兼好法師が書いたエピソードと「人生訓」をとらえよう！	○課題を把握する・ ○「人生訓」という言葉を知る。。	◇単元の４時間を貫く課題を理解したか。
	指示 本時と次時では、52 段を読んでいきます。どんな段なのか、導入部分について書いた現代語訳を読んで、状況や時代背景をとらえよう。	○　ユーモラスに、兼好法師が視点人物として書いた 52 段の意訳「知らんことは人に聞け」の前半部分を読み、時代背景や状況をとらえる。 ・「仁和寺」…真言宗の総本山で	・生徒が読みたいと思うように現代語訳を資料として取り上げる。 ・本文からだけでは

	・「仁和寺」「宮詣」「石清水八幡宮」「神仏混合」「仁和寺を石清水の位置」を簡単に、意訳と地図（教科書の挿絵）を基に確認していく。 ・ある仁和寺の法師が失敗をしたエピソードなんだ！「どんな失敗をしたのか？」と段を読む興味関心を高める。	平安末期に最も繁栄した由緒ある寺で、京都府にある。最も繁栄した当時、付属の寺院は 66 余りあり、法師は多数いた。 ・「石清水八幡宮」…伊勢神宮に並ぶ神宮寺。朝廷・武家の崇拝が厚く、寺と神社を併せもつ。「極楽寺」「高良社」、そして山頂に「石清水八幡宮」がある。 ・当時の参拝は、仁和寺のある京都からは、一般的には船で川を下っていくことが多い。身分の高い（天皇・上皇）は従者を従えて牛車で詣でた。 ・徒歩でいくと、八幡宮のある男山の麓にある「極楽寺」「高良社」を通る。 ・何か、仁和寺のある法師は、とんでもない失敗をしたんだな。	読み取ることができず、かつその段で作者が言いたいことをとらえるために必要な時代背景や当時の風習等を意訳した現代語訳や地図を用いて共通理解させる。
	発問 「ある仁和寺の法師」は、とんでもない失敗をしたらしいが、どんな失敗をしたのか。		
10 分	指示 青い字の歴史的仮名遣いに気を付けて、52 段の古文をまず､自力で読んでみよう。 ・難しいのはどれか？ 「法師（ほふし）」をローマ字に直してみよう。 ・一文ずつ確認しながら、教師の後について読もう。 ・隣と丸読みをしよう。 指示 現代語訳を読みながら、古文と対応させて問いに答えよう。	○　青い字の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直しながら、音読する。 ・いはしみづ→いわしみず ・をがみて→おがみて ・かへり→かえり ・かたへ・あひて→かたえ・あいて ・ありけむ→ありけん ・まゐりて→まいりて ＊ほふし→？難しい →ＨＯＨＵＳＩ →ほーし	・「歴史的仮名遣い」の発音を自学プリントとして配布しておく。 ・自力読みから、範読で確認というステップを踏む。 ・語中・語尾のハ行をワ行に直す原則は徹底する。 ・母音「ｱ･ｲ･ｳ･ｴ･ｵ」＋ウ＝長音「ー」は難しいので、ローマ字表記に直して取り立て指導
15 分	○　次の古語の意味は何か。 ①　かたへ（片方） ②　本意（ほい） ③　徒歩（かち） →「徒歩より」 ④　先達（せんだつ） ⑤　思ひ立ち （終止形「思ひ立つ」）	①　片側→傍ら、そば ②　本来の志・本来の目的 ③　徒歩（とほ）歩いて →「歩いていくこと」 ④　指導者、案内者、先輩 ⑤　決心をして （新たに何かをいしょうと決心	・現在の言葉の意味に近く類推できるもの、名詞から、現在は使われない語、形容詞や動詞へと難易度を上げて聞いていく。 ・現代語訳を対応するようにしておく。

	⑥　心憂く（終止「心憂し」） ⑦　ゆかし（＊重要古語） ○　「ある仁和寺の法師」は、若いか、結構な年か。 ・古文から証拠を挙げよ。 ○　この法師は、年寄るまで何をしたことがなかったのか。 ○　この法師は、何を「思ひ立ち」、（どんな一大決心をして）たのか。	をする） ⑥　辛い、嘆かわしい ⑦　（対象に心が引かれ）聞きたい、知りたい、見たい。 ・結構な年 ↓ 「年よるまで」石清水を拝ざりければ ・「石清水詣で」に行くこと。	・現代語訳から答を探させた後、対応する部分の古文を見付けさせる。 ・大方の人が一度はお参りしたことがあることや、当時の「宮詣」の風習に意訳の現代語訳で簡単に触れる。 ・キーワード「思ひ立ちて」
20 分	発問 仁和寺の法師は、どんな失敗をしたのか？ 指示）現代語訳を手掛かりに考える。 現代語訳と古文を結び付ける。 条件１）前半部分から２箇所の古文を証拠として取り出す。 条件２）「誰が何をしたかったのに、何をしてしまったか」の形式に合わせて、80 字程度書く。	・自力で考える。 古語「石清水を拝まざりければ心うく覚えて」 「極楽寺・高良などを拝みて、かばかりと心得て帰りにけり。」 例）ある仁和寺の法師が、長年、参拝したい思っていた石清水に参拝にいったのに、極楽寺・高良を石清水だと勘違いして参拝し、本当の石清水を参拝せずに帰ってきてしまった。（79 字）	◇主語「ある仁和寺の法師」が「石清水を参拝したかったのに」「極楽寺・高良だけを拝んで帰ってきてしまった」の３要素が含まれていてＢ。さらに字数が適切でＡ。

(4)　本時の評価

○　歴史的仮名遣いとリズムに気を付けて音読することができる。

○　現代語訳と古語を対応させたり、古語に対応する現代語訳を見付けたりすることができる。

○　仁和寺の法師はどんな失敗をしたかを、条件を踏まえて記述することができる。

８　本時の指導Ⅱ

(1) 本時のねらい（本時３／６　全６時間）

○　「現代語訳から古文へ」という対応をしながら、「徒然草」第 52 段の「ある仁和寺の法師」が失敗した理由を考えることができる。

○　第 52 段を、どんな人に贈るかを考え、「贈り状」を書くことを通して「先達はあらまほしきことなり」という兼好法師の人生訓を自分なりの言葉でまとめることができる。

(2)　本時の構想

①　現代語訳を手掛かりにさせ、古文から複数の根拠を挙げさせて、ある法師が失敗した理由を読み取らせる。

②　第 52 段を「○○○○○なあなたへ」という形式でどんな人に贈りたいかを考えさせ、

書き方の形式と書く条件を示して「贈り状」を書かせることで、「先達はありまほしきことなり」という兼好法師の「人生訓」を、自分なりの言葉でまとめさせる。

③　「ペアインタビュー法」というペアインタビューをさせ、友達がどんな相手にこの段を贈りたいかを聴き取り、いろいろな受け止め方を知る。

(3)　本時の展開

時間	教師の働き掛け	○学習活動・予想される反応	・留意点◇評価
15 分	前時の確認　ある仁和寺の法師は、どんな失敗をしてしまったのか。 ○　52 段の音読をしよう。	・石清水をお参りしたかったのに、拝まずに帰ってきてしまった。 ○ 52 段の音読 ・歴史的仮名遣いや重要古語と現代語訳との対応に気を付けて音読する。	・全員で、音読をしながらある仁和寺の法師の失敗を確認する。
	発問 「ある仁和寺の法師」は、なぜ失敗をしたのか？		
	○　考えられる理由を、現代語訳を手掛かりに、できるだけたくさんあげよう。 ・個人で考え、ワークシートに書き込もう。	ア極楽寺と高良社を拝み、それを石清水だと思いこんで、山頂へいかなかった。 イ参拝者が皆、山へ登っていったのを眺めながら、その理由を尋ねることをしなかったから。 ウ事前によく調べないで行ったから。 エたった一人で行ったから。	・ワークシートに書き込んでいくが、隣の人と相談しながら回答してよいこととする。 ・
	○　失敗した理由が、古文のどの部分と対応しているのか、確認しよう。	ア→極楽寺・高良などを拝みて、かばかりと心得て帰りにけり。山までは見ず。 イ→参りたる人ごとに山へ登りしは、何事かありけん、ゆかしかりけれど、 ウ→明確な証拠はない。（ある時思ひ立ちて） エ→ただ一人、徒歩より	◇アとイについて、対応する古文の部分を見付けることができる。 （A…適切に。B…対応部分を含んで指摘）
10 分	発問　兼好法師は、この「ある仁和寺の法師」の失敗談を書いて、最後に「先達はあらまほしきことなり」という人生訓を書いています。さて、皆さんは、この 52 段のエピソード＋人生訓を「どんな人」に贈りたいですか。人生訓の意味を想像しながら考えてください。		・全体で、どんな人を想定したらよいのか、いくつか例を挙げたり、考えを出し合ったりして、イメージを広げさせる。
	例　「思いつきですぐ行動してしまう人へ」 「独りで何でもどんどん進めてしまう人へ」	・よく確かめないおっちょこちょいな人へ ・何か変！と思っても、周りに聞けない人へ ・自信過剰で自己満足している人へ	

	発問　「どんな人」に贈りたいかを想定したら、この段、全体を読んで次の条件を考えよう。 条件１：「どんな人に贈りたいか」 条件２：なぜそう思ったか、52段の兼好法師の挙げた事例や人生訓を踏まえて根拠を挙げる。	・ワークシートに箇条書きで条件１と２を書く。	
10分	指示　ペアを作り、一人はインタビュアー、一人は、インタビューに答える人です。 ２分間で合図をするので、それまで、Aさんは、質問例を参考にしながら、できるだけ詳しく相手の考えを聞き出してください。そして、相手の考えのキーワードを簡潔にメモしてください。 ２分たったら、合図をするので、インタビューをする側と答える側を交代してください。 ２組とやります。	A　どんな人に贈りたいか？ B　〇〇な人です。 A　なぜ、その人に贈りたいのか？ B　それは、～です。 A　具体的に、52 段のどんなところから、そのように考えましたか。 B A　いてほしい「先達」とは、どんな人ですか？	・考えを確かにさせるために、ペア対話を取り入れる。「聞き取りシート」にメモしながら聞かせる。
10分	指示　最初に書いた自分のワークシート、それからペア対話を通して自分の考えに付け加えたいことを明らかにして、52段を「贈りたい」相手に向けて、メッセージを書きましょう。 条件１　どんな人に贈りたいか［　　］へ 条件２　なぜ贈りたいかのわけを書く。 条件３　52 段の内容や人生訓を簡潔に書く。	**思いつきですぐ行動してしまう人**へ この段には、長年行きたかった石山寺詣でに行こうと一大決心をしたにもかかわらず、よく場所も確かめずに一人で出かけてしまった法師の話が書かれています。 一大決心をして何かを始めるなら人に相談したり、場所などを確かめたりしてから行ってください。	・左のような例を示す。 ◇　条件を踏まえて、贈りたい相手に向けて、メッセージを書くことができる。

(4)　本時の評価

〇　仁和寺の法師が失敗した理由を、現代語訳と古文を対応させて答えることができる。

〇　52 段を贈りたい相手を想定し、段の内容や人生訓を踏まえて「贈り状」を書くことができる。

９　本時の指導Ⅲ

(1) 本時のねらい（本時４／６　全６時間）

○　「徒然草」第 54 段「仁和寺の法師ども」、第 92 段「ある人、弓射ること」、第 109 段「高名の木登り」を現代語訳や漫画で読み、その中から自分の「人生訓」を作りたいと思う段を選んで、現代語訳を手掛かりにしながら、古文で大まかな内容をとらえることができる。

(2)　本時の構想

①　中学生の「人生訓」となりそうな段をいくつか取り上げ、現代語や漫画でざっと読ませ、興味があり、自分の「人生訓」を作りたいと思う段を選ばせる。

②　取り上げる段は、「名人が気を付けていること」の段を二つ、愚かな人の行動をいましめて書いてある段を二つ取り上げる。

③　鎌倉時代後期に書かれた「徒然草」の中には、現代の自分の行動とも重なるエピソードや教訓があることに気付かせ、古典を身近に感じさせる。

④　ヒントや自学ができるワークシートを作成し、同じ段を選んだ者同士で、グループを編成する。

(3)　本時の展開

時間	教師の働き掛け	○学習活動・予想される反応	・留意点◇評価
15 分	課題 きょうから２時間は、兼好法師の随筆を読んで、自分の人生訓に取り入れたいものを見付けます。現代語訳を読み、自分が参考にしたい段を選ぼう。 ○　参考にしたい段を決める。 ○　その段に決めた理由を簡単に書く。 指示　どの段を選んだか確認し、段毎にグループを組むので、座席移動を指示		・
15 分	○　古文で音読してみよう。 ○　現代語訳と古文を対応させて、大体の意味をつかむ。	・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す。 ・１文ずつ音読しながら、確かめていく。	・大体４人位のグループとする。
15 分	発問 エピソードを読み、自分でその段の「人生訓」を作ってみよう。		・

９　本時の指導Ⅳ

(1) 本時のねらい（本時５／６　全６時間）

○　「徒然草」第 92 段「ある人、弓射ること」、第 109 段「高名の木登り」、78 段「今様のことども」、11 段「神無月のころ」の段を現代語訳で読み、その中から自分の「人生訓」に加

えたい段を選んで、現代語訳を手掛かりにしながら、「人生訓」を自分で作ることができる。

○　他の段を取り上げた人と「ペア対話」をし、エピソードやそこから考えた「人生訓」を聞き合うことができる。

(2)　本時の構想

①　前時で考えた「人生訓」を、同じグループで紹介し合わせる。

②　他の段を取り上げた人と「ペア対話」をし、「人生訓」やエピソードを共有させる。

③　兼好法師のが書いた「友達」の段を読み合う。

(3)　本時の展開

時間	教師の働き掛け	○学習活動・予想される反応	・留意点◇評価
5分	指示　・確認テストをしよう。 歴史的仮名遣い 古文との対応		
15分	発問 グループ内で、「人生訓」を紹介し合い、兼好法師が書いたエピソードと照らして、一人一人が書いた「人生訓」が妥当かどうかを話し合おう。 指示　その段のエピソードから言えるかどうかの検討		・
15分	指示　他の段の人とのペア対話 発問 他の段を読んだ人の「人生訓」を聞き合おう。		・聞き取りメモ
15分	今までの段から、兼好法師の教えについて、参考になったことを条件に従ってまとめる。		